

文部科学省は27日、小の全国学力・学習状況調査6年と中学3年を対象に4月に実施した本年度「NEWSの言葉」の結果を公表した。

全国学力テスト 2013年度公立校の平均正答率上位県

順位	小学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B
1	秋田	秋田	秋田	秋田
2	青森	福井・石川	福井	福井
3	福井		青森	石川
4	石川	青森・香川	石川	香川
5	香川		富山	広島

順位	中学校			
	国語A	国語B	数学A	数学B
1	秋田	秋田	福井	福井
2	福井	福井	秋田	秋田
3	山形・富山	石川	石川・岐阜	岐阜
4		富山	石川	石川
5	青森	岐阜	愛知・香川	静岡・香川

平成25年度全国学力・学習状況調査の 都道府県別ランキング ベスト5

第1位	秋田県	秋田、福井は前回に引き継ぎ、またもや上位をキープ。平成19年度以来、上位は固定しています。ただ、今回、全体的には、成績下位の自治体と全国平均の差が縮み、文部科学省は「学力の底上げが図れた」としています。
第2位	福井県	
第3位	石川県	
第4位	青森県	
第5位	香川県	

※公立小学校の平均正答率上位県

●「全国学力テスト」とは…
全国の小6と中3を対象に、2009年以来4年ぶりに全員参加で実施。

●実施教科

国語A	国語B
算数A (数学A)	算数B (数学B)

【A問題】主に「知識」に関する問題

【B問題】主に「活用」に関する問題


「問い」を発する子ども

秋田わか杉子学びの十か条

- 一 早ね早おき朝ごはんは家庭学習
- 二 学校の話題ではすむ一家庭らん
笑いが顔を活性化
- 三 読書で拓く心と世界
めぐるページ、広がる想像力
- 四 話して書いて伝え合う国語
国語力は学びの基本
- 五 難問・難題にも挑戦する算数・数学
あきらめずやり続けることで能力アップ
- 六 新発見の連続、広がる総合
総合の時間は脳のヒタミ
- 七 きまり、ルールは守ってあたりまえ
落ち着いた教室で高まる集中力
- 八 いつも気を付けている言葉づかい
相手意識で、みがかく活用力
- 九 説明は筋道立てて伝わるように
整理する工夫が脳のトレーニング
- 十 学んだことは生活で学校ですく活用
活用できて本当の生きる力

3 児童の様子

① 授業中の姿勢がよい



●机に伏せている子、イスガッタンをしている子は見あたらない。

② 積極的に発言する

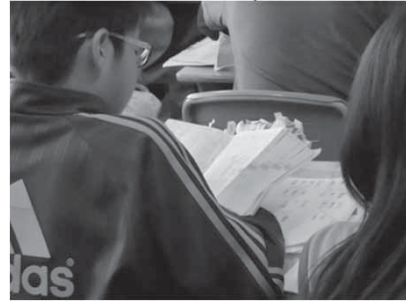


●どの学級も挙手が多い→発言したい欲求

③ 机上が整理されている

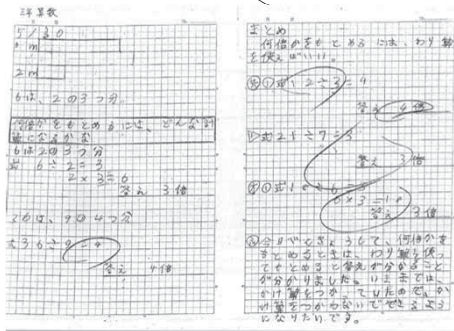


④ 国語辞典を活用している



●辞書で調べた内容を根拠に発言する児童

⑤ 定規を使って線を引いている



●ノートの書き方が丁寧である

⑥ 下駄箱の靴が整頓されている



⑦ 聞く態度ができている

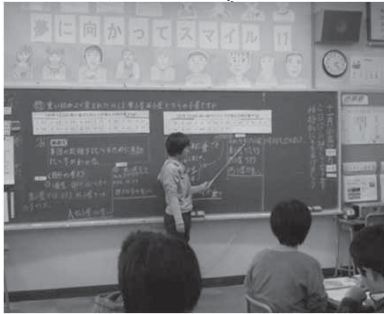


●話を聞くときの体の向き

⑧ 自分の考えをノートに書く



⑨ 自分の考えを発表している



●しっかり自分の考えを書く→発表する

⑨ 自分の考えを発表している



●根拠を示して発表している

⑩ 一人勉強の習慣



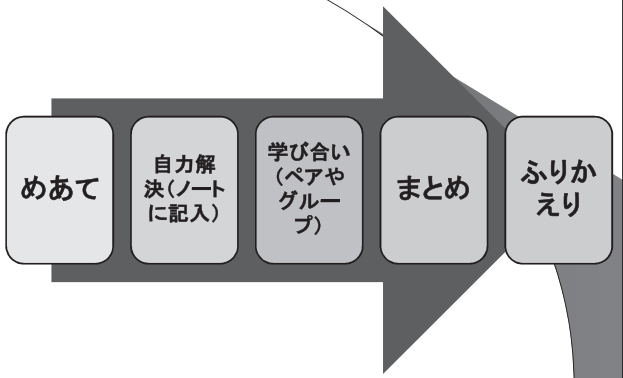
●家庭学習ノートの掲示コーナー

4 秋田の授業スタイル

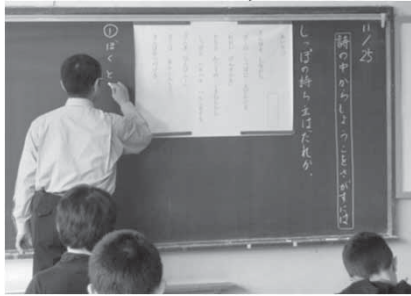
秋田型授業のポイント

- ①<導入>焦点化されたねらい
- ②<展開>自力解決、学び合いの充実
- ③<終末>分かったことが実感できる
まとめと評価

授業展開 秋田スタンダード



①<導入>焦点化されたねらい



●本時のゴールを明確化→課題意識の共有

①<導入>焦点化されたねらい



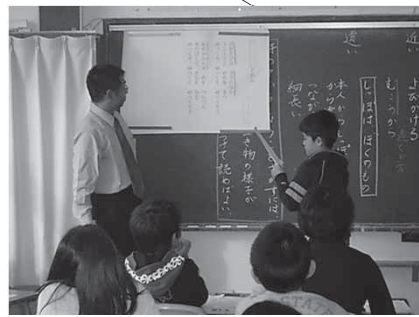
●授業の基本的な流れが確立している

②<展開>自力解決、学び合いの充実



●自力解決後の個々の発表→学び合い

②<展開>自力解決、学び合いの充実



●個の学びを全体の学びにつなげていく

②<展開>自力解決、学び合いの充実



●多様な考えや対立意見を生むような発問

②<展開>自力解決、学び合いの充実



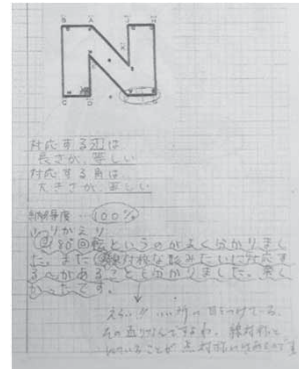
●考え方、学び合いの仕方を学ぶ

②〈展開〉自力解決、学び合いの充実



●1年生から全ての教師が実践

③分かったことが実感できるまとめ



●まとめとふりかえりをノートに記入する。
学習の成果を言語化する。

秋田型授業の特徴

時間がかかるからと、一方的に教師が説明し、答えを教え、板書し、『分かったかな?』で終わる授業は一度も見なかった。

秋田型授業の特徴

ドリルの繰り返しによる定着や、問題の解き方を教え込む授業は一度も見なかった。

5 研修について

①授業研究を核とした校内研修

- ・4月に提案授業
- ・ワークショップ型がスタンダード
- ・全員が研究授業
- ・研究授業後の改訂指導案
- ・研究授業参観の機会が多い

②授業の基本スタイルの共通理解

国語科における寺内のスタンダードの積み重ねと構築

導入

- 1 学習意欲の喚起と課題提示
- 2 めあての明確化

展開

- 1 一人で考える時間の保障
- 2 多様な考えを生む発問の工夫
- 3 自分の考えを発表する場の設定
- 4 発言をつなげた集団での学び合い

これまでの研究の蓄積
 ・意欲的に学習に取り組もうとする気持ち
 ・学習意欲の持続
 ・場面の様子や登場人物の心情の読み取り
 ・理由や根拠を示しながらの説明

まとめ

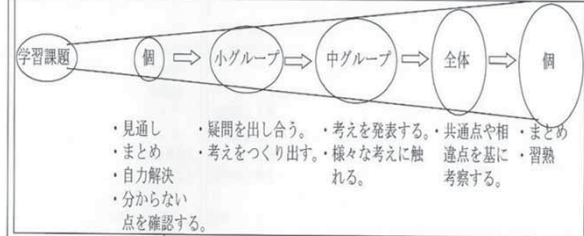
- 1 まとめと振り返り
- 2 次時への意欲付け

一人一人の学びの充実 ↔ 全体の学びの充実

● 目指す授業イメージの共有

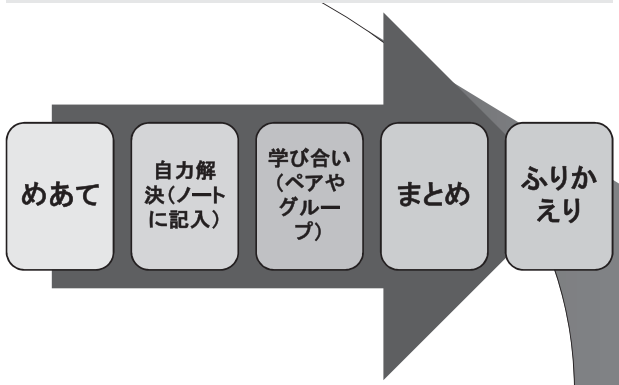
②授業の基本スタイルの共通理解

＜個の学びの確立のプロセス＞



● 秋田市立寺内小学校 学びの確立プロセス

②授業の基本スタイルの共通理解



③研究主任の役割

- ・視察した3校は、40代前半の担任教諭が研究主任

④研究協議がワークショップ型

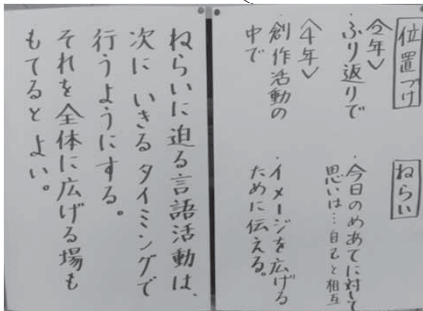


● ワークショップ型研修が当たり前

④研究協議がワークショップ型

- ・研究協議の中心は、課題解決に向けた具体的な手だての検討
- ・具体的な手だての明確化、さらに改訂指導案

④研究協議がワークショップ型



● 研修で改善の手だてを明確化

⑤個人プレーではなく、チームで

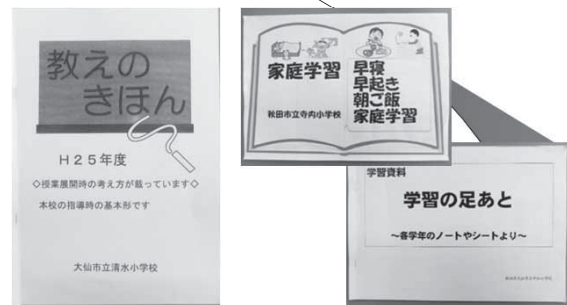
- ・全員で共通指導の徹底
- ・教師間の情報も密に
- ・T. T授業で先輩から学ぶ

⑥ノート指導の共通理解



● 理想的なノートづくりの方法を共通理解

⑥ノート指導の共通理解



● 授業の基本やノート指導を共通理解

⑦時間を生み出すために

- 学級経営案は非常に簡略化されている。事務作業の軽減も意識されている。

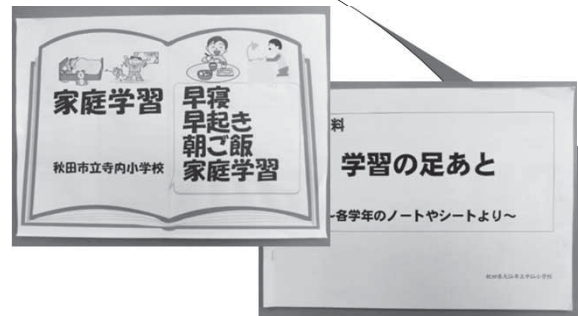
学年	学期	内容
1	1	1. 1学期の学習計画
1	2	2. 2学期の学習計画
2	1	3. 3学期の学習計画
2	2	4. 4学期の学習計画
3	1	5. 5学期の学習計画
3	2	6. 6学期の学習計画
4	1	7. 7学期の学習計画
4	2	8. 8学期の学習計画
5	1	9. 9学期の学習計画
5	2	10. 10学期の学習計画
6	1	11. 11学期の学習計画
6	2	12. 12学期の学習計画

⑦時間を生み出すために

- ・子どもと向き合う時間を最優先
- ・職員会議や打合せは必要最小限に

6 家庭・地域との連携

①家庭で勉強する文化



- 家庭学習を支援する資料

①家庭で勉強する文化

「自分が子どもの頃から一人勉強が当たり前でした」と校長先生が話していた。伝統的に一人勉強をする文化がある。

②保護者と学校の良好な関係

- 地域や保護者からの感謝や御礼の言葉等を全職員で共有。
「小さな信頼の貯蓄」

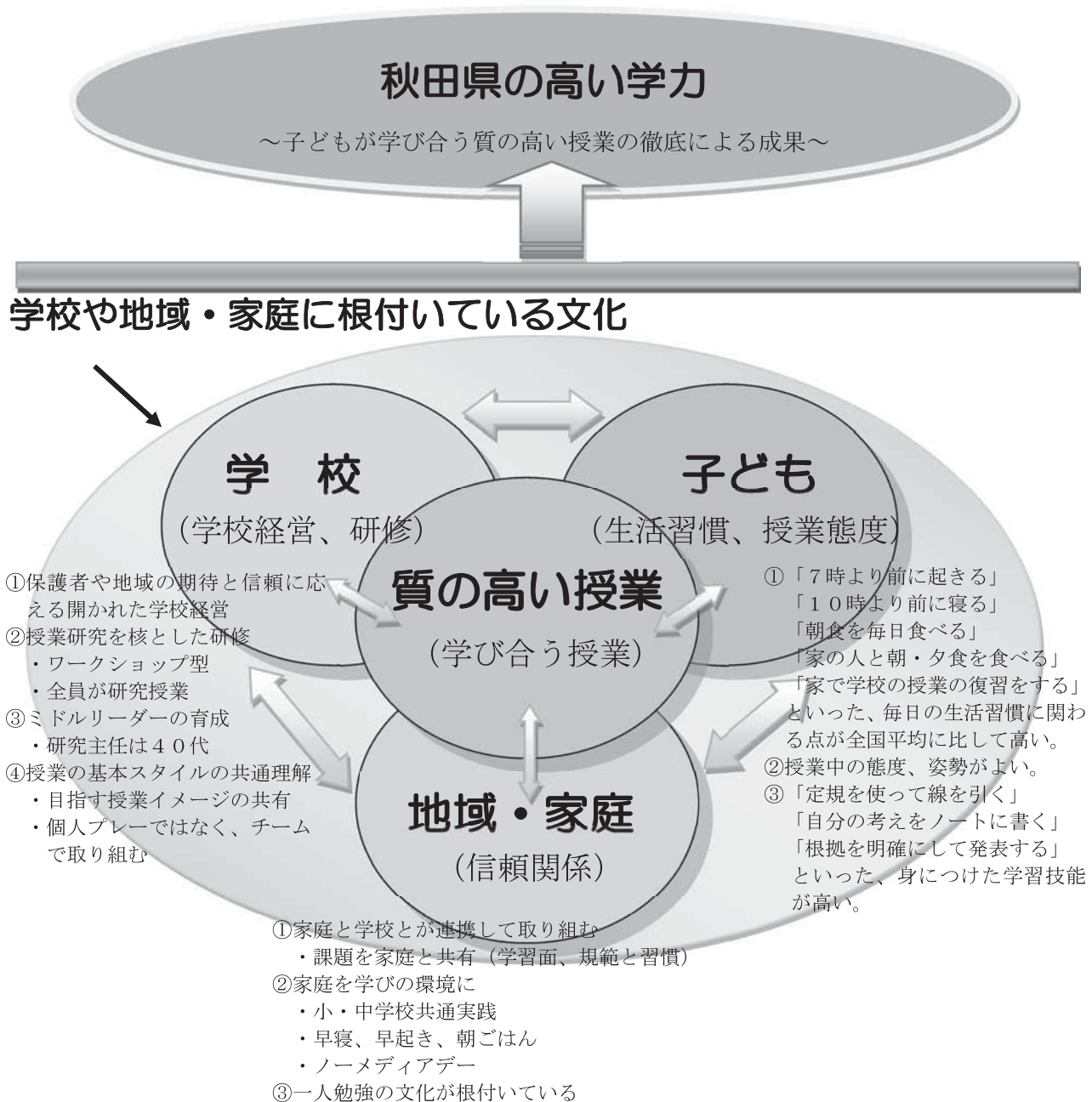
②保護者と学校の良好な関係

「学校を開く」ことをどの学校も意識しており、保護者会の出席率も極めて高い。

視察報告まとめ

- 全ての学級で学び合う授業
- 教師の個人プレーではなく、チームで取り組む
- 学校や家庭に根付く文化

秋田県の学力の相関図



(2013 秩父市教育研究所)

校内の授業研究会に関する取組段階表

	ステップ1	ステップ2	ステップ3
研究授業を行う授業者の割合	2割程度	5割程度	10割
研究授業を参観する機会(教員一人当たり)	年間2～3回	年間4～6回	年間7回以上
授業の流れの共通指導について	校内に共通指導が存在する	全教員が共通指導を知っている	全教員が共通指導できている
指導案の分量	少ない上にまとまりがない	よくまとまっているが、分量が多い	洗練されていて少ない
事前の指導案について	事前の指導案を指導者に送付する	事前の指導案を参観者に送付する	事前の指導案を参観者が目を通し、協議会に参加する
事後の指導案について	協議会後に改訂指導案を作成する	改訂指導案を指導者に送付する	改訂指導案を参観者に送付する
協議会のすすめ方	全体会のみ	グループ協議あり	ワークショップ型
協議会で出される意見	褒める意見のみ	よい点と課題点が出る	課題に関しての改善点が話し合われる
課題・改善点の中心議題	学習規律に関することが中心	学習規律と研究主題に迫る内容が半々	研究主題に迫る内容に関することが中心

2 インターナショナルセーフスクール【秩父第二中学校区への支援】

1 概要

秩父市教育委員会が秩父第二中学校区（秩父第二中学校、花の木小学校、南小学校）へ研究委嘱を行い、平成27年度にISS（インターナショナルセーフスクール）の認証取得を目指す。ISSは、セーフコミュニティの学校版国際認証であり、学校における安全対策が中心的な課題である。

2 研修会及び担当者会議

(1) 委嘱状交付式及び第1回インターナショナルセーフスクール推進校担当者会議

ア 日時 平成25年5月21日（火）15：30

イ 場所 芸術文化会館会議室

ウ 参加者 教育長、各校校長及び教諭1名、危機管理課職員、教育委員会職員

エ 内容 委嘱状の交付及び危機管理課職員による概要説明

(2) インターナショナルセーフスクール研修会

ア 日時 平成25年8月19日（月）16：00

イ 場所 歴史文化伝承館 5階会議室

ウ 参加者 日本SC推進機構：白石代表理事、今井事務局長、各校1～4名、危機管理課職員

エ 内容 白石代表理事による概要説明

(3) 第2回インターナショナルセーフスクール推進校担当者会議

ア 日時 平成25年9月26日（木）15：00

イ 場所 花の木小学校 2階研修室

ウ 参加者 各校3名、危機管理課職員、教育研究所員

エ 内容 危機管理課職員による概要説明、今後の取組についての協議

(4) 第3回インターナショナルセーフスクール推進校担当者会議

ア 日時 平成25年10月30日（水）15：15

イ 場所 南小学校 2階図書室

ウ 参加者 日本SC推進機構：白石代表理事、今井事務局長、各校2～7名、危機管理課職員、教育研究所員

エ 内容 白石代表理事による講演、今後の取組についての質疑応答

(5) 第4回インターナショナルセーフスクール推進校担当者会議

ア 日時 平成26年2月6日（木）10：00

イ 場所 秩父第二中学校 視聴覚室

ウ 参加者 日本SC推進機構：白石代表理事、今井事務局長、各校3～4名、危機管理課職員、教育委員会職員

エ 内容 各校による説明、今後の取組についての質疑応答

3 研究校の視察

(1) 豊島区立朋有小学校視察

ア 期 日 平成25年7月10日(水)

イ 参加者 教育長、各校2名、総務部3名、教育研究所員2名

(2) 厚木市立清水小学校 I S S 認証現地審査の視察

ア 期 日 平成25年10月9日(水)

イ 参加者 各校1~2名、危機管理課3名、教育委員会職員3名

(3) 厚木市立清水小学校 I S S 認証式典の視察

ア 期 日 平成25年11月18日(月)

イ 参加者 市長、教育長、花の木小校長、総務部4名、教育研究所員2名

4 その他の取組

(1) 取組宣言

ア 期 日 平成25年7月22日(月) 14:45

イ 場 所 歴史文化伝承館 5階会議室

ウ 内 容 各校より S C 推進機構：白石代表理事へ取組宣言の書簡を手渡し

(2) 横断幕設置

ア 期 日 平成25年11月21日(木)

イ 参加者 各校職員、総務部3名、教育研究所員

ウ 設置後のようす



南小学校



花の木小学校



秩父第二中学校

3 体力課題解決研究指定校【高篠小学校への支援】

1 概要

体力課題解決研究指定校は、体力の課題解決に向けた研究、学習指導の改善及び体育的活動に関する研究を2年間取り組む。

高篠小学校では、研究主題を「自ら進んで運動に取り組む、健やかな心と体を持つ児童の育成」と設定した。また、目指す児童像を「元気いっぱい 運動大好き しののめっ子」とし、体力の向上と運動好きな児童の増加を目指した取組を実践している。

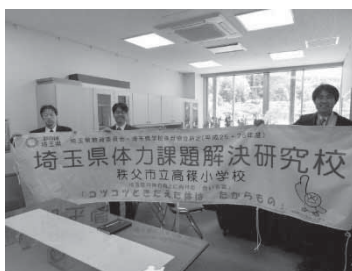
2 主な取組・内容等

(1) 委嘱状交付式

5月7日(火)県保健体育課の主席指導主事が高篠小を訪問し、委嘱状の交付式を行った。委嘱状と共に横断幕も交付された。



委嘱状の交付



横断幕



校舎4階に掲示

(2) 要請訪問の実施

年間3回の要請訪問を実施した。(要請訪問の概要 p.6 参照)



6月13日(木)

6年生バスケットボール
大島 悠史 教諭



10月4日(金)

4年生小型ハードル走
櫻井 勇佑 教諭



11月21日(木)

1年生ボール投げゲーム
坂本寿美子 教諭

(3) 指導案検討会への参加

低学年ブロックの指導案検討会に参加し、高篠小学校の先生方と一緒に教材づくりに取り組んだ。

(4) 出前授業の実施

指導案検討会に参加する中で、体育授業における学習規律の身に付けさせ方について質問があった。そこで、11月6日の5校時、2年生を借りて出前授業を実践した。他学年の先生方も参観し、高篠小全校統一の体育授業の指導方法や声かけの具体例を実践した。

(5) 平成26年度発表日程

2年間の研究成果を平成26年11月28日(金)に発表する。